見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

January 2019 vol.57

January						
S	M	T	W	T	F	S
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

◆ 名古屋城

所在地：名古屋市中区本丸

交　通：地下鉄名城線「市役所」駅 北西 約 400m

名古屋城は、関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康が天下統一への布石として築城した城で、築城に合わせて、清洲（清須）の城下町をまるごと名古屋城下へ移転しています。この移転は「清洲越し」と呼ばれ、軍事的には大阪の豊臣方への備えという側面がありますが、清洲では度重なる水害に悩まされ、また天正地震で大きな被害を受けていたことから、防災的には災害リスクの低い場所への集団移転とも言えます。慶長 14(1609) 年に築城が決定され、翌 15 年には加藤清正ら西国大名 20 家に天下普請が命じられ工事が始まり、慶長 17 年にほぼ完成します。以後 400 年余り、名古屋城も何度か地震を経験しており、被害の様子が愛知県災害誌や名古屋市史などにまとめられています。

完成後、最初の大きな地震は 60 年後の寛文 9(1669) 年 6 月で、M5.9 の地震が発生し名古屋城では一部の石垣が崩れる被害が発生しています。

約 40 年後の宝永 4(1707) 年 10 月には、東海地方から九州地方にかけて広い範囲に被害をもたらした宝永地震が発生します。名古屋市域の震度は 5 ～ 6 程度とされ、名古屋城では門や土塀、櫓がほとんど損傷し、天守も塗壁が一部剥落した、とされています。また、城下の武家屋敷でも練塀がはがれるなどの被害が発生し、熱田神宮の常夜灯をはじめ、寺社の灯籠も数多く倒れ、地割れや液状化も発生しました。熱田まで津波が襲来したという記録もあります。

宝永地震から 100 年ほど経過した享和 2(1802) 年 10 月にも、尾張地方で強い揺れがあり、名古屋城では本町門の石垣が崩壊し、また門の西の松が倒れ、高塀が崩れて堀に落ち込んだ、という記録が残されています。

さらに 17 年後の文政 2(1819) 年 6 月、名古屋で震度 5 ～ 6 を感じる地震が発生します。名古屋城では、このときも石垣の一部が破損し、特に東一之門北西の石垣の被害が甚だしかったとされています。城下では土塀、築地が一部崩壊し、寺院の門が倒れたものがありました。

嘉永 7(1854) 年 11 月には、東海地方から四国地方にかけて大きな被害をもたらした安政東海地震が発生します。名古屋の震度は 5 ～ 6 程度で、名古屋城では、三の丸の門、多門櫓、高塀等が破損し、武家屋敷で 147 か所の破損がありました。また、津波が堀川を逆流して尾頭橋あたりまで達し、堤防を越えて堀川以西一帯が浸水しています。

明治 24(1891) 年 10 月には、日本における過去最大級の内陸活断層型地震である濃尾地震が発生します。名古屋市の震度は 6 ～ 7 で、名古屋城では、西南隅櫓の下の石垣が崩壊して、櫓が空堀内に倒壊する被害のほか、本丸・御深井丸・二之丸周囲の石垣上の多門櫓が壁、屋根等に大被害を受け、後に撤去されています。

このように、築城後、幾度となく地震を経験してきた名古屋城ですが、残された記録では、石垣や土塀、櫓の被害にとどまっています。「清洲越し」の目的は様々ありますが、熱田台地の西端の地盤の良い場所への移転は、度重なる水害への備えとともに、地震災害の軽減にもつながってきたかも知れません。

◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

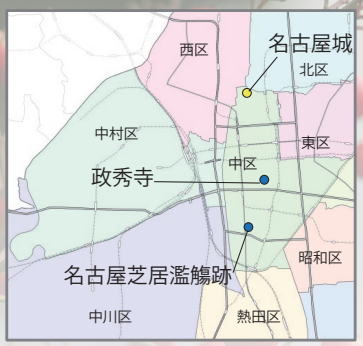
◆名古屋城の周辺には…

● 名古屋芝居濫觴跡（橘座跡）

所在地：名古屋市中区橘

交　通：地下鉄名城線「東別院」駅 北西 約 400m

橘町は名古屋の芝居公許地として最も古く、寛文 5（1665）年から、春秋二回芝居興行が認められていました。東西の名優が競って来演し、大変栄えたようです。その後中絶と再興を繰り返しますが、明治 24（1891）年濃尾地震によって橘座は倒壊し、ついに途絶えてしまいました。現在では、説明看板（写真左側）だけが立っています。



● 政秀寺

所在地：名古屋市中区栄

交　通：地下鉄名城線「矢場町」駅 南西 約 400m

明治 24（1891）年濃尾地震により本堂、庫裡等がことごとく倒壊し、その後三年間かけて修繕が行われました。また周辺では、濃尾地震で、裏門前町の万年寺、門前町の性高院、金沢町の全性寺、東本願寺別院茶所が倒壊しています。

◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html）をご覧ください。

★ 名古屋中国春節祭

春節は旧暦の 1 月 1 日・旧正月のことで、中国ではこの日を祝って春節祭が盛大に行われます。この春節祭にちなみ、中日の交流を促進するために、毎年 1 月に名古屋市の久屋大通公園において名古屋中国春節祭が開催されます。(平成 31 年は 1 月 12 日 (土) ～ 14 日（月・祝)、旧正月は 2 月 5 日)

中国の文化を伝えるイベントとして、民俗舞踊や中国楽器の演奏、武術の披露などが行われ、過去には少林寺武僧団による演武や、手を使わずに次々に面を変化させる「変面」などのパフォーマンスも行われています。また、中国料理が味わえる屋台では、中国では年越しに食べる水餃子など本場の味を楽しむことができ、食材や物産・雑貨の販売も行われます。

名古屋中国春節祭 HP より

1 月のあいちの花

平成 31 年 1 月のあいちの花は「和物」です。「和物」は、トキソウなどの日本在来の草花、黒松などの植木、千両、万両などの実付きの植物等、「日本の四季や文化を表現できる鉢植え植物」の総称で、昭和 46 年に西尾市で名付けられた呼称です。尾張地方と西三河地方における植木や盆栽がその起源になっています。

今月のあいちの花 HP より

挿し木、接ぎ木、実生などによって苗を作り、畑で 2,3 年かけて生育させたものを鉢に移し、盆栽風に仕立てて生産されます。県内で生産されている和物の主な品目は約 100 種類にも及び、全国的に希少な品目も生産されています。

●ブレイクタイム●

♪ 金シャチ横丁

金シャチ横丁は、尾張名古屋の美味、歴史、文化を発信する食のエンターテインメントゾーンで、名古屋城正門前・東門前に、平成 30 年 3 月に誕生しました。

正門側エリアの義直ゾーン（10:30 ～ 17:30）は、「伝統、正統」をテーマに定番・老舗のなごやめしのお店が、東門側エリアの宗春ゾーン（10:30 ～ 22:30）は、「新風、変化」をテーマに名古屋の新しい食文化を発信する新興の店舗が出店しており、オリジナルメニューも用意されています。テイクアウトメニューも充実しており、購入後、名古屋城に再入場して城内で楽しむこともできます。

Aichi Now HP より

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html）をぜひご覧ください。

（発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター　平成 31 年 1 月）